

かねだ勝年後援会 NEWS

内閣委員会で質問

平成22年3月12日(金) 10:40~



党高政低、党・中央集権主導が問題！ 行き過ぎた「政治主導」に喝！

3月12日(金)、内閣委員会で登壇した かねだ代議士は、民主党が地方自治体や各種団体からの陳情を党に一元化したことや、公共事業の予算配分方針を党を通じて伝えるなどしたことについて、平野内閣官房長官・仙谷内閣府担当大臣に対し、その政治手法を徹底的に糾弾。

さらに、「これが政治主導の姿なのか？不信や不安が地方からふつつつとわいている」と追求しました。



平野 官房長官



仙谷 担当大臣

○金田代議士
政権が発足して約半年に、民主主義の危機とも言える様々な現象が起こっている。これは、政治主導の意味をはき違えているからではないか？
政治主導も行き過ぎた政治主導であって、党の中央集権モデルを作ろうとしているのではないか？

○平野官房長官
国民主導で政治を動かしていきたい。その実践方法として、政治主導という考え方をしている。国民から選ばれた政治家が責任を持って対処していく仕組みを作りたい。

○仙谷国務大臣
官僚内閣制の実態を打破して、正しく議院内閣制のもとで国民から権力の正統性を担保された総理大臣が、その執政権を適切に行使する、その体制が政治主導の内閣だと思う。

○金田代議士
真の政治主導とは、難しい言葉を並べるのではない。行政官が、国民の皆さんから様々な情報を集めて、その専門性を活かして政策案を企画し、そしてその選択肢を政治家がしっかりと判断し、決断する。そして、マニフェストが加わったら、そのお手伝いもする。その「双方向」をもつてはじめて、真の政治主導となるのではないか？

○平野官房長官
金田議員のおっしゃるとおりだと思う。行政職におられる方々の知恵や知識を十分に活用するのは当然。官僚の皆さんを活用し使い切ることが大事。

○金田代議士
平成六年の昔、今の鳩山総理が官房副長官をやっておられた。そのときに私はちょうど、内閣府、内閣官房、今話題になっている政治主導というあるべきかというところの担当主計官だった。その時に、当時の鳩山官房副長官から、

海外への広報の予算を増やしてくれというご指示があった。私は官。その時に私は自分で申し上げることも申し上げた。「はい、そうですか」と官が言うことが政治主導ではない。当時の査定は、広報費はできるだけ等しく各省一律に削っていく方針があった。しかし、結果として新しい予算をつけた。これはなぜか。日本の民間企業一企業でも、日本の海外への広報予算を上回る広報の予算を組んでいる。この国が威信と誇りをしっかりと世界に示すためにはそれをやらなければいけない。だから、そういうことを大蔵省の中で主張して、できる限界を当時の官房副長官であった鳩山由紀夫現総理と打ち合わせをしながら進めて実現した。当時は 本心に政官一緒になって物を考えていく、そういうやりとりであって一方通行ではなかった。ここが大事であり、一方通行や行きすぎではいけない、政治主導の本質に関わってくる事だ。

民主党と政府の政権運営には、国民に不安と不信、そして怒りを感じさせるものが多いだろうか？具体的にはまず、①いわゆる党高政低による陳情の党への一元化。それに、②予算に関連しての団体への理不尽な圧力。③国会軽視、予算委員会軽視をした個所付け漏洩問題など。これらは皆、予算の政治利用、選挙利用とも言わべきもの。これらは、この夏の参議院選挙を意識した利益誘導だと疑われても仕方がないのではないか？

○平野官房長官
陳情の一元化については、政府としてはより多くの国民の皆さんの声を聞きながら政策を進めていくべき。また、党のルールを政府に持ち込まない。政策については政府で意思決定をする、そう心がけたい。

○金田代議士
次に、○長崎の知事選での党役員の発言。また、○秋田における農相の発言。これらは、おどしと受け取られる発言だった。権力者としてやってはいけないことだ。

質疑の様子は、衆議院ホームページ内「衆議院TV」で、いつでもご覧頂けます。
～「ビデオライブラリ 平成22年3月12日(金) 内閣委員会 発言者：金田勝年」～



～平成22年3月12日
議事録より抜粋～

○平野官房長官
恫喝的なこと、これは政府としてやるべきではないと思っ
ている。

○金田代議士
そして、もう一つが、政治とカネの問題にかかる国会運営
のあり方の問題。

私も参議院で十二年働いていた。議会運営と国会対策が
長かった。だからこそ、私は野党・少数政党の意見を丁寧に
聞く、そしてどこまで実現できるかを考える。これが本当の
国会運営だと思ふ。それが今回は全くない。

今までなら、現職の議員が起訴された場合に、野党議員が
そろって辞職勧告決議案を出したらこれを採決したり、
政治とカネの問題については、国会の場で証人喚問や参考人
質疑を通じて明らかにする。今回は、そうした声に全く応じ
ることなく、衆議院の予算審議を数の力で終えてしまう。
国会運営も横暴極まる。民主主義の危機だとすら言えるの
ではないか。官房長官、どう思うか？

○平野官房長官
与野党逆転したので報復しているというわけではない。
与野党のあり方はやはり健全であるべきもの。そして、
政治とカネということには、常に襟を正すべきもの。国民の
皆様に対しても、それぞれ政治家個人の判断としてしっか
りと説明をしていくことが大事と思ふ。

○金田代議士

すれ違いの答弁ではない。国民の期待を担って政権を
取った以上、立場としてはしっかりと国民の意を踏まえて
最大限の努力をするという答弁が当然のはず。“民主党内
あらずんば人にあらず”という空気が流れていないか？
これが与野の政治であるからこそ、見逃すことは出来ないし
言わざるを得ない。これを、政治を変える政治主導の中身
だと言うなら、私たちはこの国の政治の将来に危うさを
感じる。

次に大切なのは政と官の関係。他国を例にみると、イギリ
スは政治任用と一般行政の人事が明確に区分されており、

介入できないことになっている。そのイギリスでさえ、現在、
上院の憲法委で首相への権力集中と政治任用の危険性が叫
ばれ調査に乗り出している。つまり、行き過ぎた政治主導へ
の反省が出てきている。二ついった事例をどうお考えか？

○仙谷大臣

日本は戦後、イギリス的な議院内閣制を取り入れなが
ら、三権分立という言葉だけはアメリカの民主主義を取り
入れた。その中で、官僚制については、政治的な中立性
あるいは専門性というものについて議論がないまま今日に
至ったのだと思ふ。

政策を立案し執行するのは国民のためなんだ、というこ
ろが抜け落ちて、省のため局のためという感覚になっ
ている。

○金田代議士

中立性と専門性。これは公務員の皆さんに非常に重要な
ポイント。同時に、それを担保する必要もある。従って、党
が、あるいは政治が、行政機構を支配して、「カラスが白い」
と言わせるような事のないように。

議員内閣制のイギリスでは、専門職としての公務員と政治
任用としての立場の峻別は明確であり、大統領制のアメ
リカでさえ、上院がチェックする仕組みになっている。それ
ぞれの国が、それぞれのやり方で権力の集中を招かないよ
うにしている。

マネジメントの仕事だけをするような一方通行の公務員で
はなく、しっかりと全部を企画できる双方向の公務員をつ
くるのが、仙谷大臣や官房長官、そして総理の仕事である。
そのチェック&バランスについてどういう考えをお持ちか？

○仙谷大臣

イギリス、フランス、ドイツを参考にしたい。政治任用で
重要なのは、恣意的な党派性や極端な政治性が出ない任
用の仕方をどうするかである。私どもは幹部に適性試験
を行い、標準的な能力を担保した上で、総理と官房長官と
大臣との協議で、大幅なクロス人事を考えていきたい。

○平野官房長官

総理のリーダーシップを発揮できる仕組みをつくりたい。
大切なのは、公務員の皆さんにしっかりと働いて頂くことで
あって、抑え付けて崩してしまうということではない。官の
役割でしっかりと働いてもらう、しかし、責任は政治家がとる、
である。

○金田代議士

要するに、健全な政と官の関係が大切。それが出来ないど
策決定機能も日本の政治も危うくなり、国益の損失になる。
それと同時に、公務員は「国民への奉仕者」であり、「公的な
ものへの献身」を旨としている。間違っても特定の政党や政治家
のためのイエスマンになるようなことのないよう。

政治家がしっかりと掌握できる能力と実力を持っていれば、
官はついてくるのだから。

今、「新しい政権が、国民のための政権が、できた」と言うの
ならば、双方向でやれるようにする。これが真の政治主導。

○平野官房長官

金田議員の今までの経験に基づいたご意見は承る。私ども
は恣意的にものを決めたり、自分の好きな公務員だけ周りに
集めたりはしない。公務員が頑張る環境をどうつくるか、
先生の指摘を十分踏まえて、法案提出の際にまた議論頂き
たいと思ふ。

○金田代議士

政治が行政機構を支配するような、党の中央集権主導の
ような、そういう形には絶対にならないほしい。
政と官の健全な関係をきっちり担保できる仕組みを併せて
導入して頂くことを重ねて申し上げたい。

平成22年3月12日(金)
内閣委員会
発言者: 金田 勝年
<http://www.shugiintv.go.jp/>



~平成22年3月12日
議事録より抜粋~